庄原さとやま 民泊通信

Vol.2

平成27年7月20日発行

福山の小学校が 庄原で民泊体験！

トウモロコシの収穫体験

お盆が過ぎ、暑さも和らぎ始めた8月18日～21日の3泊4日で福山市立の西深津小学校と南小学校の児童、合せて約100人が、高野町と比和町三河内での民泊体験にやってきました。各校約50人ほどの児童が、それぞれの地域で過ごし、初日の1泊目は施設での集団泊、残りの2泊3日を受入れ家庭といった行程で過ごしました。どちらの学校も福山の中心部にあり、マンション暮らしの家庭も多いとの事で、普段とは全く違う環境の中で、目を輝かせて色々な体験に取り組んでいました。比和町三河内と高野町では行程等も若干異なりますが、基本は『交流／コミュニケーション』です。どれだけ、子どもたちと同じ時を過ごし交流を育んでいくかが大きなポイントです。今回は、高野町での受入れの様子を見ていただきどんな感じで受入れをされているか、イメージしていただけたらと思います。

高野地域で初めての学校受入れ

高野町には福山市立南小学校の児童53名が民泊体験にやってきました。初日は、ふるさと村高暮に泊まり、本格的なキャンプファイヤーなどを行い、2日目から3人～5人の班に分かれ各家庭に移動し、それぞれ田舎ならではの体験を満喫しました。受入れ家庭ごとに、畑仕事や家畜の世話、林業体験から周辺の散策、草取りお菓子作りなど、普段日常では体験しないことばかり。最初は子どもたちも緊張してか、少し距離があり遠慮がちでしたが、いろいろ体験しながらコミュニケーションを図っていくと、すっかり打ち解けて大はしゃぎ！初めての体験に興味津々で自然と笑顔で2泊3日を過ごしました。

かしわ餅づくり体験

登山前の記念写真

未来を担う子どもたちへ・・・
これからの社会を生きる力を。

庄原市さとやま体験交流協議会　事務局
（庄原市観光協会）　0824-75-0173

民泊研修会開催
9月18日(金)19日(土)

体験型教育旅行(民泊)の第一人者である藤澤氏による研修会を開催しました。1日目は民泊の意義や狙い、そして全国の先進地の事例などを踏まえた取り組み方を講演。2日目は、実際の受入家庭を会場に、生徒が訪れたことを想定しながら、どのように迎え入れるかを学びました。

コミュニケーションのポイントは「いかに相手に多くを話させるか。そのためには何が重要か。」などを実際にシュミレーションしながら指導してもらい、口数が少ない生徒とのかかわり方やコミュニケーションを円滑に図る手法を学びました。また、同時に会話のネタとなる野菜や庭の植物などの雑学等も教えてもらい、参加者の方も初めて知ることが多く、興味をそそられる内容ばかりでした。

受け入れ家庭での研修風景

インストラクター研修の実施

体験型教育旅行の受入には100人～200人での集団体験プログラムが必要になります。今回は、その体験プログラム提供者であるインストラクターの養成講座を実施いたします。体験プログラムのブラッシュアップとともに、インストラクターとしてのスキルを身につけていただける内容となっています。受入れ家庭の皆様にも農業体験、食体験と、家業体験(受入れ家庭での体験)での参考にもして頂けます。農作業をする時の注意点や教え方、また食事を一緒に作る時の手法など基本的な部分を学ぶことができます。ぜひ、ご参加くださいませ。

農林業体験「りんご作業」
日時 平成27年11月5日19時～21時
6日9時～12時
会場 高野(長妻章司りんご園)

食体験「そば打ち」
日時 平成27年12月2日19時～21時
3日18時～21時
会場 庄原(庄原保健福祉センター)

詳細は別途チラシをご覧ください。

次回の特集案内

『庄原さとやま民泊通信』のVOL.3では、比和町三河内での夏の民泊受入れ特集をご案内します。お楽しみに。

今夏の民泊受入れ風景

編集者より一言

みなさんこんにちは。今年も田畑の実りがおいしい季節になりました。また、農家のみなさんにとっては、農繁期を迎えお忙しいことと思います。これから、教育旅行の冬の商戦が始まってまいります。現在、誘致獲得のため、体験プログラムの見直しや各種方面へのプロモーション活動を行っています。ぜひ誘致できるよう、がんばってまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

(事務局員:曽根)